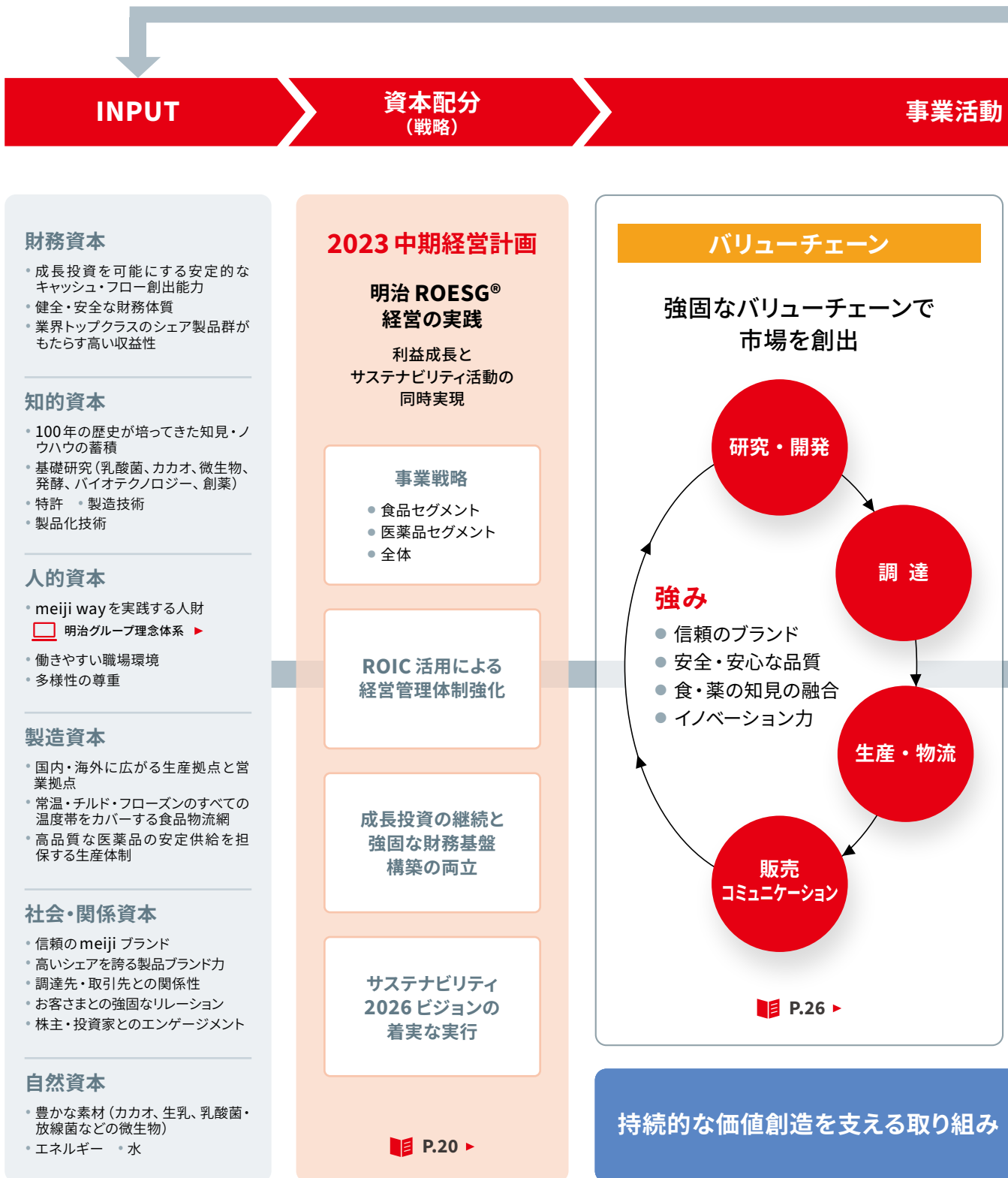


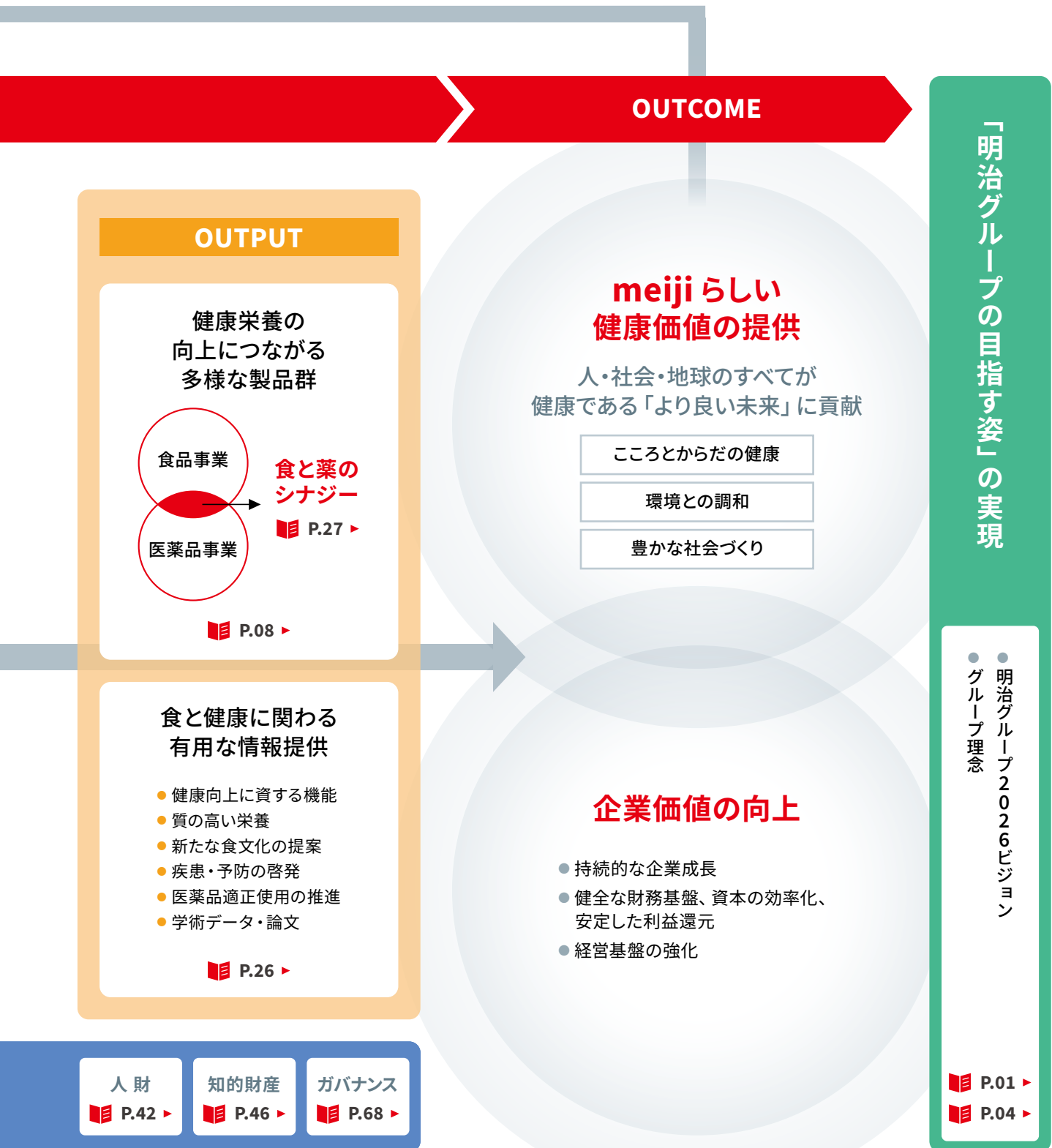
明治グループの価値創造プロセス

meiji ならではの戦略とバリューチェーンによって
豊富な資本から健康価値を創造し、ビジョンを実現



明治グループの競争力の源泉は、豊富で多様な資本の蓄積と、「明治ROESG[®]※経営」による戦略的な配分、そして自社の強みを活かした強固なバリューチェーンに基づくビジネスモデルです。これらをもとに「食品」と「医薬品」の領域にまたがって「meijiらしい健康価値」を創造し、すべてのステークホルダーに提供して企業価値を向上させていきます。このプロセスによって、私たちが掲げるビジョンを実現し、持続的な成長を果たしていきたいと考えています。

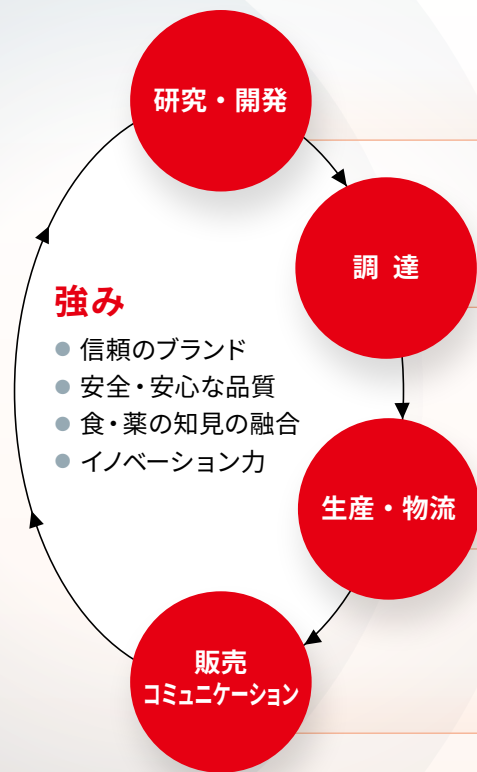
※「ROESG」は一橋大学教授・伊藤邦雄氏が開発した経営指標で、同氏の商標です



明治グループのバリューチェーン

明治グループは、ビジネスの基盤となるバリューチェーンにおいて、豊富な強みを有しています。これらをもとにバリューチェーン全体で大きな価値を生み出し、健康に貢献する多様な製品や有益な情報を提供しています。

強固なバリューチェーンで市場を創出



明治グループの特徴・強み

- 蓄積した基礎研究による知見(乳酸菌、カカオ、微生物、発酵、バイオテクノロジー、創薬)
- 微生物ライブラリー(乳酸菌、放線菌)
- 化合物ライブラリー(合成化合物、微生物代謝産物)
- 優れた研究開発力と製品化技術、製造技術、それに伴う特許

- 酪農家とのネットワーク
- カカオ農家との協働
- 関連団体との連携
- 医薬品のグローバルサプライチェーンによるコスト競争力・安定調達

- 品質管理体制(製品の安全・安心の確保)
- 全温度帯をカバーする物流網(常温・チルド・フロースン)
- おいしさを実現する独自の製法
- 医薬品の優れた生産技術と多彩な製剤化技術
- 超高齢社会への対応、医療保険制度継続への貢献

- 信頼のmeijiブランド、製品ブランド力
- 高い市場シェア
- 取引先、お客さまとの双方向コミュニケーションと強固なリレーション
- 予防から治療までの製品群と総合的な提案力
- 薬剤耐性菌に関する啓発

- 新たな市場の創出
- 挑戦文化の醸成
- 食品事業と医薬品事業の知見の融合
- 予防から治療に至るまでの健康価値の提供
- 乳幼児から高齢者まで全ライフサイクルをカバーする製品カテゴリー
- 社会や環境に配慮したサプライチェーンの構築

食と健康に関わる有用な情報提供

食品事業

たんぱく質摂取向上により「ウェルネス社会」の実現へ

日本人のたんぱく質摂取量は1950年代と同レベルまで低下しています。その危機感から、(株)明治は、伊藤ハム米久ホールディングス(株)、マルハニチロ(株)とともに、2022年6月、たんぱく質コンソーシアム「めざせ1日80g!たんぱく摂ろう会」を設立しました。さまざまな啓発活動を通じて、「ウェルネス社会の実現」を目指します。

めざせ1日80g!

たんぱく
摂ろう会

めざせ1日80g!
たんぱく摂ろう会 ▶

医薬品事業

「記者会見」を適宜開催し重要情報を正確かつタイムリーに発信

明治グループでは、事業に関わる重要情報を正確かつタイムリーに伝えるべくプレスリリースを配信し、記者会見も実施しています。新型コロナウイルス感染症に対する不活化ワクチンでは、開発や治験などの進捗状況を適宜お伝えしています。



会場開催と併せて、オンライン参加も可能な開かれた記者会見としています

食と薬のシナジー

健康価値領域での新たな挑戦

明治グループの特徴の一つは、グループ内に食と薬の両事業を有していることです。それぞれの知見を融合し「健康価値領域」でシナジーを生む取り組みを進めています。

医療機関専用サプリメント meiQua

食品事業と医薬品事業が持つノウハウを結集し、医療機関専用サプリメント「meiQua (メイキュア)」を立ち上げました。医療機関専用サプリメントとは、患者さんの疾病や健康状態、生活習慣を把握している医師による診療や日常の健康サポートのなかでお使いいただくサプリメントです。シリーズ最初の製品である「meiQua EPA1000」は、日々の食生活で不足しがちな栄養素・成分をエビデンスに基づいて配合したオールインワンの製品です。2022年4月から首都圏の精神科や内科などの医療機関へご案内を開始しました。

また、これに先立つ2020年4月には、価値共創センターと明治グループ事業会社の関連部署で「事業化推進プロジェクト」を始動しました。現在、価値共創センターのシーズを活かしたmeiQuaシリーズの新たな製品の開発を進めています。

価値共創センター設立から4年
特許出願、論文採択、学会発表などに研究成果

2021年度は特許出願4件、論文採択2件、学会発表3件を行い、着実に成果が生まれはじめています。がん研究で大きな影響力がある「Cancer Discovery」誌に、乳酸菌の細胞外多糖ががんに対する免疫チェックポイント阻害剤の治療効果を高めることを報告しました。海外の第一線研究者から注目されています。



「Cancer Discovery」誌に掲載された論文のフロントページ

さらなる発展に向けて

価値共創センターでは多くの国内外企業・アカデミア・ベンチャー・公的機関とネットワークを構築しています。特に「抗老化」と「免疫増強」の分野でオープンイノベーションを進め、技術的・人的交流を推進しています(2021年度の実績:7大学、4公的機関、11民間企業)。

各事業会社から出向している第一線の研究者と最新鋭の機器を整備した研究環境で先進的な研究に取り組んでいます。明治グループ事業会社が有する研究基盤と強みのさらなる発展を目指しています。

「健康価値領域での新たな挑戦」を具現化する研究拠点

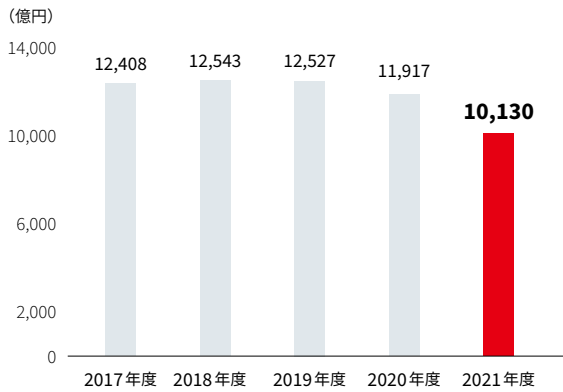
価値共創センターでは、明治グループの事業会社から出向した研究員がそれぞれの知見や技術を持ち寄って研究しています。腸内細菌からヒトの健康状態を解析する「マイクロバイーム技術」をもとに、「抗老化」「免疫増強」の研究を進めています。各社が積み重ねてきた技術と外部の新技术を合わせることで、「健康価値領域」での新たな価値創出を目指しています。



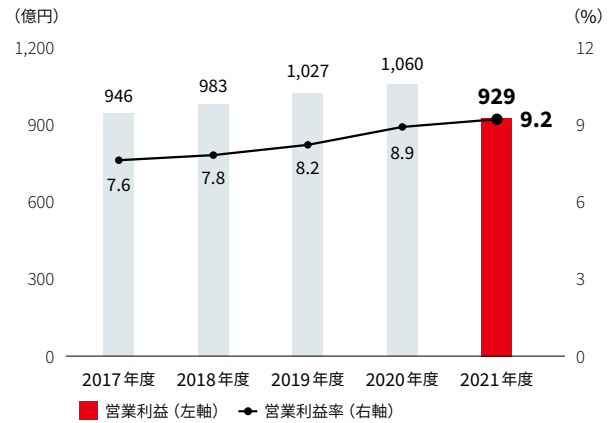
価値共創
センター

財務・非財務ハイライト (主要指標の推移)

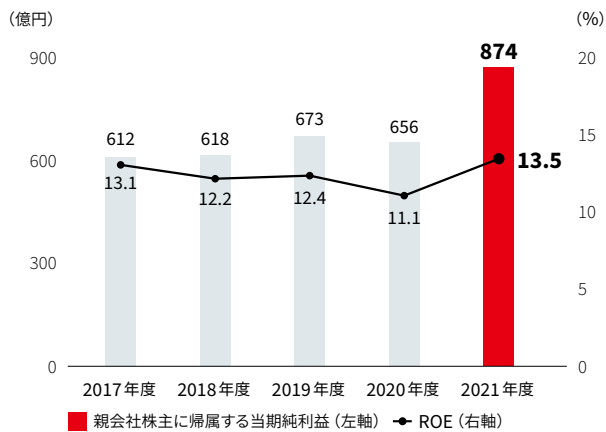
売上高 ※1



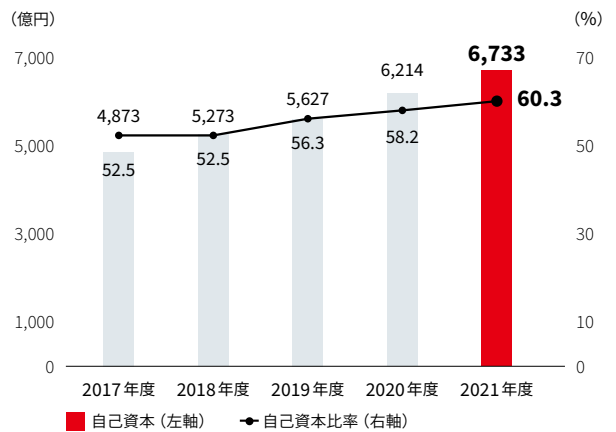
営業利益 / 営業利益率



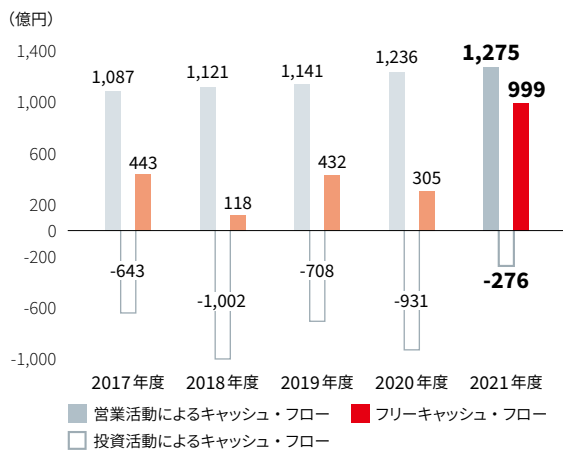
親会社株主に帰属する当期純利益 / ROE



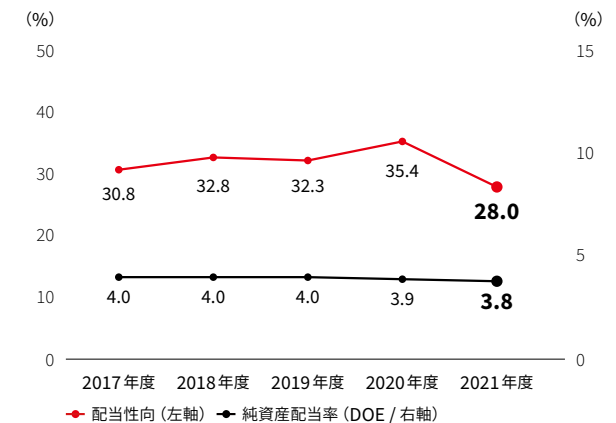
自己資本 / 自己資本比率



キャッシュ・フロー

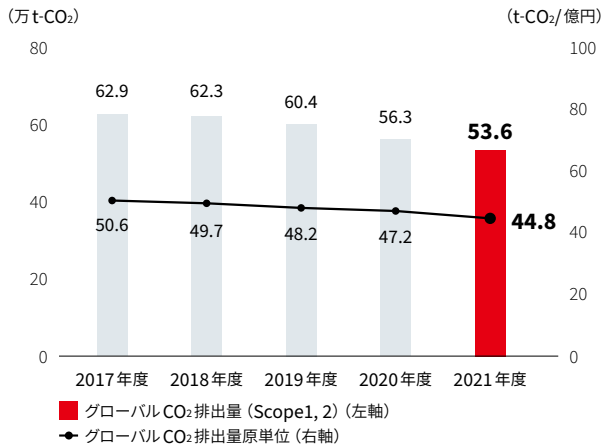


配当性向 / 純資産配当率 (DOE)

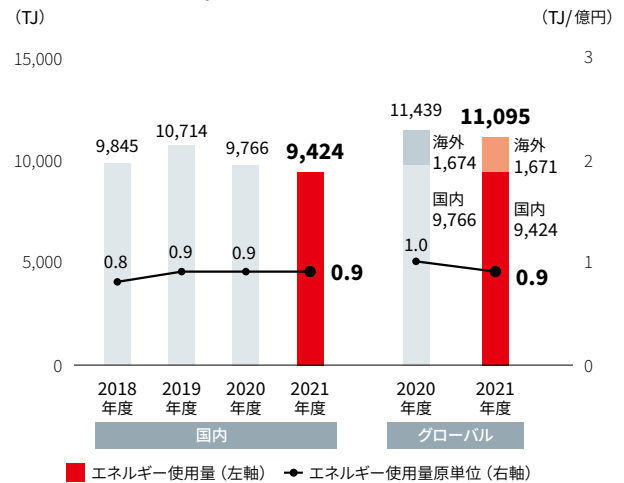


※1 2021年度より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しています。
 ※2 明治グループ(国内明治グループおよび海外生産系14工場<2019年度までは12工場、2020年度は13工場>)、原単位は連結売上高から算出
 2018年度より、KMバイオロジクス(株)熊本工場を集計対象範囲に加え、2019年度より、同社の全拠点を範囲に加えています。
 ※3 原単位算出に使用している売上高には、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用していません。
 ※4 国内データは国内明治グループ、原単位は国内連結売上高から算出
 グローバルデータは明治グループ(国内明治グループおよび海外生産系14工場<2020年度は13工場>)、原単位は連結売上高から算出
 2018年度より、KMバイオロジクス(株)熊本工場を集計対象範囲に加え、2019年度より、同社の全拠点を範囲に加えています。

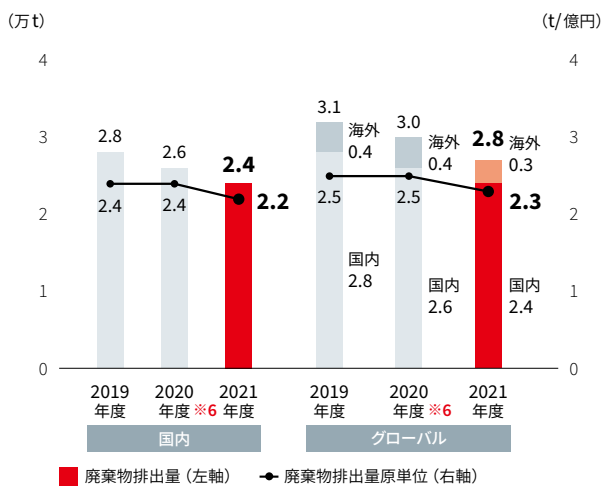
CO₂排出量 (Scope1, 2) / CO₂排出量原単位 ※2, 3



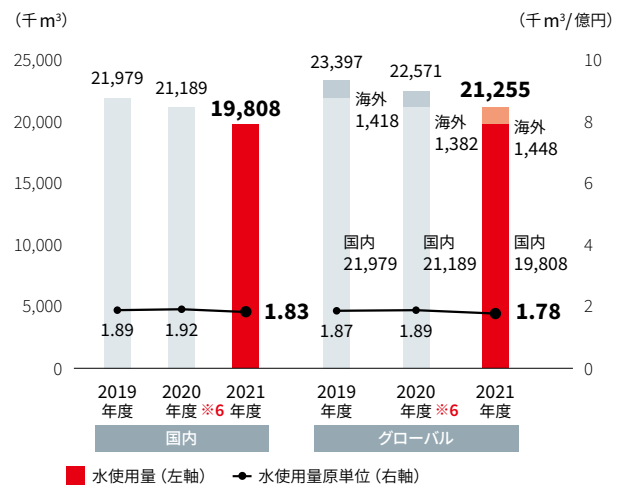
エネルギー使用量 / エネルギー使用量原単位 ※3, 4



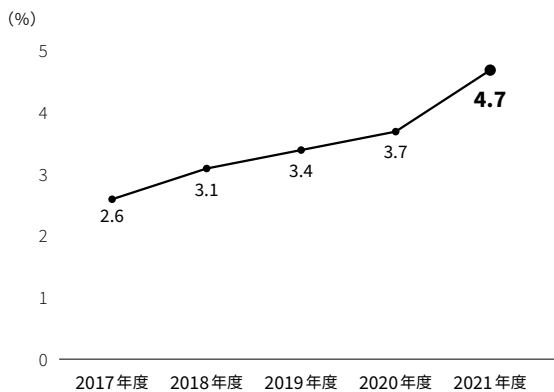
廃棄物排出量 / 廃棄物排出量原単位 ※3, 5



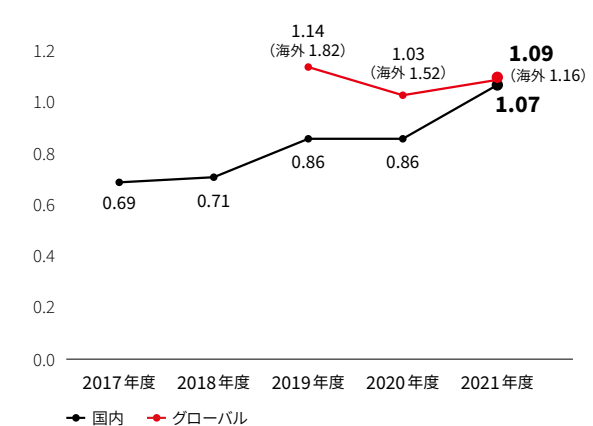
水使用量 / 水使用量原単位 ※3, 5



女性管理職比率 ※7



休業災害度数率 ※8



※5 国内データは国内明治グループ、原単位は国内連結売上高から算出
 グローバルデータは明治グループ（国内明治グループおよび海外生産系14工場（2019年度は12工場、2020年度は13工場））、原単位は連結売上高から算出
 廃棄物排出量は、生産系拠点からの産業廃棄物を集計対象範囲としています。

※6 過年度のデータを見直しました。

※7 明治ホールディングス（株）、（株）明治、Meiji Seika ファルマ（株）、KMバイオロジクス（株）の単体
 2018年度より、KMバイオロジクス（株）を集計対象範囲に加えています。

※8 2017年度・2018年度は国内連結子会社および沖縄明治乳業（株）の工場、研究所を対象範囲に含む（ただし、KMバイオロジクス（株）、明治飼糧（株）、大蔵製薬（株）は除く）。
 2019年度より国内連結子会社、沖縄明治乳業（株）および（株）明治とMeiji Seikaファルマ（株）の生産系海外グループ会社のすべての事業所を対象範囲に含む。
 休業災害度数率：死傷者数 ÷ 延べ労働時間数 × 100万